

場合などは、手術をしても 50%以上の人にがんの再発が起きることが知られています。

前立腺がんが再発した人には、内分泌療法（ホルモン注射など）が行われますが、内分泌療法も、通常、数年以内にあまり効かなくなり、半数以上の症例で、がんが進行する傾向があります。

また、手術療法および内分泌療法で、根治できなかった前立腺がんに対しては、有効な治療法がないのが現状です。

あなたの前立腺がんは、現在、他の臓器に転移していませんが、がんの進行具合（臨床病期）、病理組織学的悪性度、PSAの数値からみて、前立腺を摘出する手術をした後、5年以内に35%以上の確率で再発する可能性があるかと予測されています。

3. 遺伝子治療臨床研究の目的について

北里大学病院では、手術が可能な患者さんのうち、手術後に再発する可能性の高い人に対して、手術前に遺伝子治療を行ない、その後、手術を行なうことで、再発の予防につなげたいと考えています。

今回ご紹介する遺伝子治療臨床研究では、前立腺の摘出手術をすぐには行なわず、まず手術の前に、あなたのがん細胞にウイルスの酵素の遺伝子を入れてから、抗ウイルス剤を4週間毎日点滴注射し、その後、手術によって前立腺を摘出します。

培養細胞や動物を使った実験の結果からは、がん細胞にウイルスの遺伝子を入れてから抗ウイルス剤を投与すると、がん細胞の増殖を抑えたり、がん細胞を死滅させたりすることがわかっていますが、患者さんでも同様にがんを小さくする効果があるかどうかは、まだ研究段階のため確実ではありません。また手術後の再発を予防する効果についても、明らかではありません。そこで、今回の遺伝子治療臨床研究において、この方法が患者さんにとって安全かどうか、どのような